

手取川・梯川水系流域治水協議会【手取川】(1/2)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

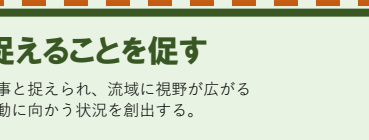
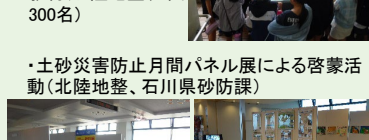
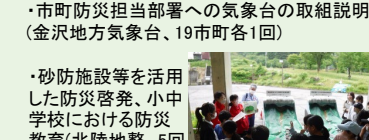
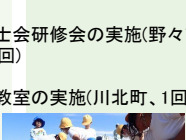
連携活動

- ・重要水防区域パトロールを合同で実施・参加(北陸地整、石川県、小松市、白山市、能美市、野々市市、川北町、金沢地方気象台、西日本旅客鉄道、1回30名)
- ・地域メディア連携協議会の実施・参加(北陸地整、石川県、金沢地方気象台、2回30名)
- ・流域タイムラインの実施・参加(小松市、白山市、能美市、野々市市、川北町、石川県、金沢地方気象台、8回)
- ・拠点避難所全10か所に拠点避難区防災会を設立し、地域住民による避難所運営を目指す(野々市市、10か所×2回)
- ・氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための砂防事業と治山事業の連携(北陸地整、林野庁、石川県、現地勉強会1回15名)
- ・宮竹用水土地改良区、石川県、小松市等と合同水防パトロールを実施(能美市)
- ・地域住民による避難所運営(小松市)
- ・排水訓練を水防訓練と合同で実施を検討(小松市)



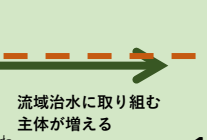
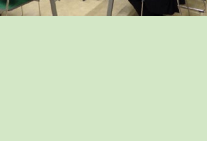
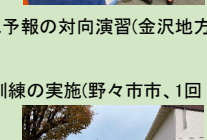
教育活動

- ・講演会・出前講座等の実施(北陸地整(2回150名)、石川県(6回210名)、金沢市(74回)、小松市(50回)、白山市(4回200名)、能美市(18回)、野々市市(2回)、金沢地方気象台、石川県砂防課(1回))
- ・手取川アウトドア教室の実施・参加(北陸地整、小松市、白山市、能美市、野々市市、川北町、1回50名)
- ・防災士会研修会の実施(野々市市、20回)
- ・水防教室の実施(川北町、1回73名)
- ・気象台長による首長訪問の実施(金沢地方気象台、19市町各1回)
- ・市町防災担当部署への気象台の取組説明(金沢地方気象台、19市町各1回)
- ・砂防施設等を活用した防災啓発、小中学校における防災教育(北陸地整、5回300名)
- ・土砂災害防止月間パネル展による啓発活動(北陸地整、石川県砂防課)



訓練活動

- ・水防連絡会・洪水対応演習の実施・参加(北陸地整、石川県、金沢市、小松市、白山市、能美市、野々市市、川北町、金沢地方気象台、西日本旅客鉄道、1回)
- ・地域協働による水防訓練を実施(金沢市、1回)
- ・毎年実施している水防訓練の内容を見直し、実働水防訓練を実施(小松市、1回)
- ・樋管操作訓練、排水ポンプ車操作訓練等の実施(北陸地整(9回))
- ・研修会の実施(白山市、5回180名)
- ・防災訓練へのオブザーバー派遣(金沢地方気象台)
- ・水防連絡会・洪水対応演習の様子
- ・地域協働による市民防災訓練の様子
- ・水害を想定した防災訓練の様子
- ・指定河川洪水予報の対向演習の様子
- ・市総合防災訓練の様子
- ・大規模土砂災害を想定した訓練の様子



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

手取川・梯川水系流域治水協議会【手取川】(2/2)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

流域治水の広報

・浸水想定区域パンフレットの配布(北陸地整)



北陸地整

・「わが家の防災ファイル」を作成・全世帯に配布(小松市)

・流域治水について、ホームページや広報誌にて周知(野々市市)

・水害防止啓発用チラシを作成し、県民へ広く周知(石川県)



石川県

・県の広報番組で、水害・土砂災害に関する啓発活動を実施(石川県、1回)

・総合防災訓練周知チラシ・災害時の備えに関するチラシを全町内会長に案内(野々市市、1回)

・5段階警戒レベルの周知(小松市、金沢地方気象台(キキクル))

・「水防災意識社会」の再構築に役立つ広報や資料を作成・配布する(小松市)

・水害・土砂災害の啓発(森林整備センター、1回)



・イベント等開催時に治山事業の役割・効果・必要性の説明(林野庁、2回58名)



・防災に関わる各種団体との連携強化、市民の防災意識の高揚を図るイベントを実施(能美市)



リスク情報等の提供

・多重化・多様化した情報伝達手段による防災情報等の配信(北陸地整、石川県、金沢市、小松市、白山市、能美市、野々市市、川北町)



戸別受信機の配布(白山市)

LINEによる情報提供(白山市)

白山市メール

<https://www.town.kawakita.ishikawa.jp/gv/osei/soumu/entry-1050.html>(川北町)

・河川等監視カメラを設置、増設(既設15か所、新規12か所)



・洪水ハザードマップ、WEB版洪水ハザードマップをホームページに掲載し周知(野々市市)



・浸水実績図をホームページに掲載し周知(野々市市)



・市管理河川のライブカメラ映像をホームページに公開(野々市市、1か所)

・山地災害危険地区について情報の公表(石川県森林管理課)

・防災マップの全戸配布(川北町)

・対面・オンラインによる気象解説(台風・大雨時)(金沢地方気象台)



・水位周知河川以外の河川(県管理区間)の洪水浸水想定区域図の公表(石川県)



・地区単位の防災マップ(水害)作成(石川県砂防課)



・WEB版ハザードマップの整備(川北町)

<https://www.town.kawakita.ishikawa.jp/gv/osei/soumu/entry-45.html#bousai-map>

・洪水・土砂災害ハザードマップを更新(能美市)

・金沢版デジタルハザードマップの開発(金沢市)

・ハザードマップの見直し(金沢市、野々市市、小松市)

・内水ハザードマップの作成(野々市市)

・全戸配布、デジタル水害ハザードマップなどの方法によりハザードマップを周知、活用を促進(小松市)

・住民等に水害危険性を周知できるよう検討(小松市)

・要配慮者施設における早い段階での災害情報の提供(小松市)

水防活動の支援

- ・自主防災組織のリーダーとなる防災士の育成(野々市市、金沢地方気象台)
- ・かなざわコミュニティ防災士の育成(金沢市)
- ・自主防災組織のリーダーとなる防災士は毎年80名、しみん救護員は毎年100名の養成(小松市)
- ・防災訓練の実施率の向上(小松市)
- ・自主防災組織のランクアップ(5段階評価)を実施(小松市)
- ・自主防災組織資機材等整備費補助(金沢市)
- ・水防活動の担い手となる水防団員の募集促進(金沢市、小松市、能美市(13名)、野々市市(113名))
- ・水防工法研修会の実施・参加(北陸地整、金沢市、小松市、野々市市、川北町、1回140名)
- ・水防倉庫及び倉庫内備品の点検(小松市)
- ・土のう備蓄ボランティアへの協力(白山市、560個)
- ・自主防災組織結成率100%(野々市市、98%)
- ・自主防災組織育成補助(野々市市、20件)



水災害対策の支援



透水性舗装(能美市)

- ・市民への防災用品購入に対する助成(白山市、17件)
- ・止水版の設置に対する補助(金沢市)
- ・雨水貯留槽・雨水浸透槽に対する助成(小松市)
- ・宅地嵩上げに対する助成(小松市)
- ・条例に基づく調整池設置への助成(小松市)
- ・透水性舗装整備に対する助成(能美市)
- ・町内会等に対し土のう支給(野々市市、1件)
- ・田んぼダム資材購入に対する費用補助(野々市市、0件)
- ・雨水浸透貯留施設に対する補助(野々市市、1件)
- ・指定避難所への備品の配置(川北町)
- ・非常持ち出し袋の全戸配布(川北町)
- ・大規模工場等へ水害対策等の啓発活動を行う(小松市)



計画策定

- ・出水後におけるタイムラインの検証と改善(北陸地整)
- ・防災行動計画(タイムライン)の整備・改善を支援(金沢地方気象台)
- ・要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保(小松市)
- ・要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進(金沢地方気象台)
- ・要配慮者利用施設計画の作成(白山市、10施設)
- ・要配慮者利用施設に対する砂防サポート隊の実施(石川県砂防課)
- ・要配慮者利用施設に対する土砂災害に関する説明会の実施(石川県砂防課)
- ・立地適正化計画(防災指針)見直し(野々市市、1回)
- ・立地適正化計画(防災指針)の策定(小松市)
- ・雨水管理総合計画の策定(小松市)
- ・地区防災計画(タイムライン・防災マップ)の作成支援(小松市、川北町)
- ・避難行動要支援者個別計画の作成支援(川北町)
- ・<https://www.town.kawakita.ishikawa.jp/gv/osei/soumu/entry-45.html#bousai-map>
- ・市町の避難判断マニュアルの改訂支援を主軸に避難計画策定を支援(金沢地方気象台)
- ・地区タイムラインの周知(能美市)
- ・協議会の中で検討する避難計画等を踏まえ更新(小松市)
- ・総合治水対策の推進に関する条例の制定(小松市)
- ・雨水管理総合計画の策定(小松市)



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える